



湯沢市ビジネス支援センター

ゆざわ - Biz

湯沢市ビジネス支援センター

2021年

2年目活動報告書

目次

年間相談件数／リピート率／相談対応の満足度	1
相談内容／相談で事業に前向きになれたか／業種別割合／創業支援	2
センターの運営体制	3
セミナー実施／メディア掲載／講演活動／広報活動	4
ビズの取り組み／他の機関や組織と連携した支援	5
相談事例	
新商品・新サービス開発	6
事例(1)世のトレンドをとらえたコラボ商品企画	7
事例(2)売り先を変える	8
事例(3)地域の事業者を巻き込んだ経営支援	9
事例(4)新しいサービスを創出する	10

年間相談件数

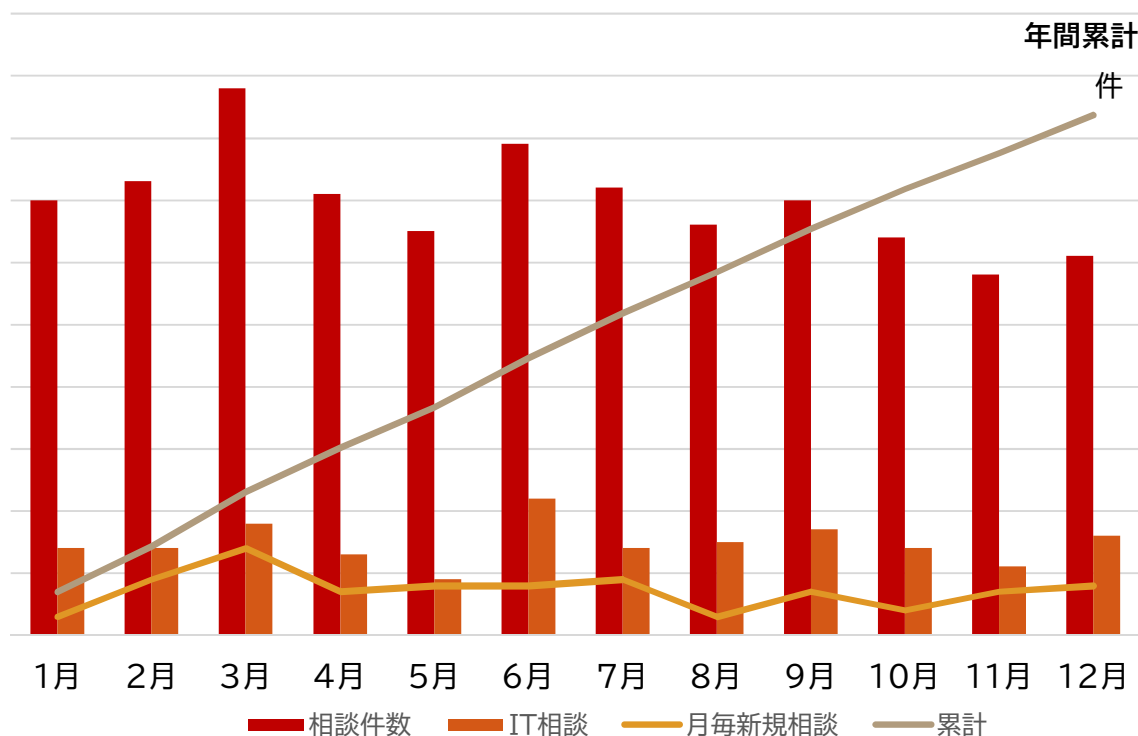
837件

2021年は、前年同様に新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発令されるなど、飲食店はもちろん、事業者全体にとって厳しい経営環境が続きました。そうした中、ゆざわ-Bizへの相談件数は毎月60～80件で推移し、年間の相談件数は837件となりました。

月次件数

月次相談件数と累計数

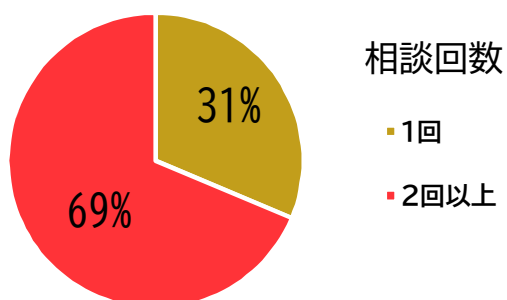
累計数



リピート率

69%

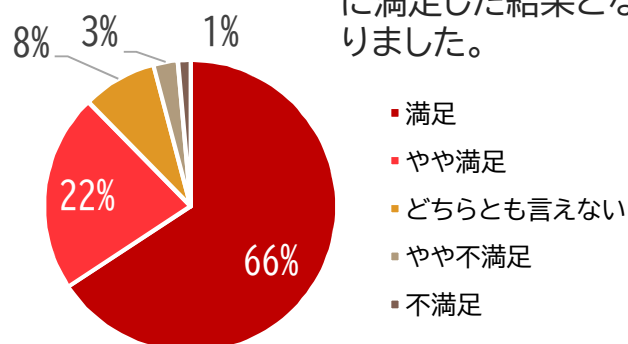
2020年1月の開設以来、初回相談から継続的に2回以上利用している事業者の割合(リピート率)は、約69%となります。



相談対応の満足度

88%

相談に来る事業者へのアンケート調査結果では、66%が「満足」、22%が「やや満足」と回答。全体の約88%が対応に満足した結果となりました。



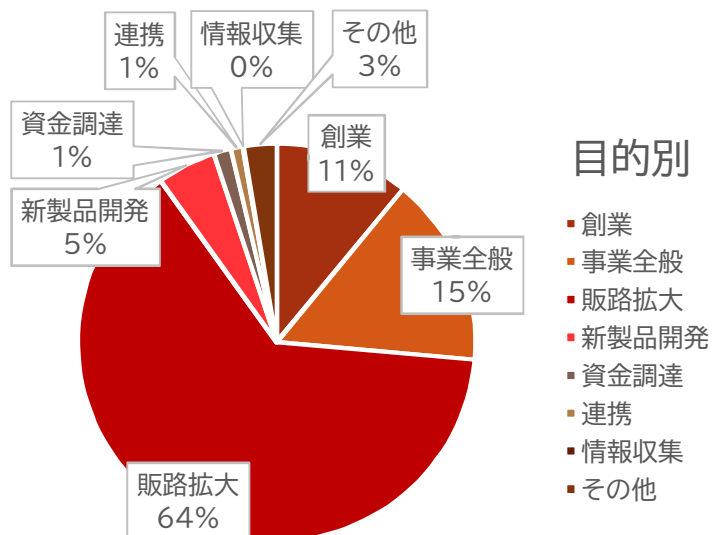
相談内容

販路拡大

事業全般

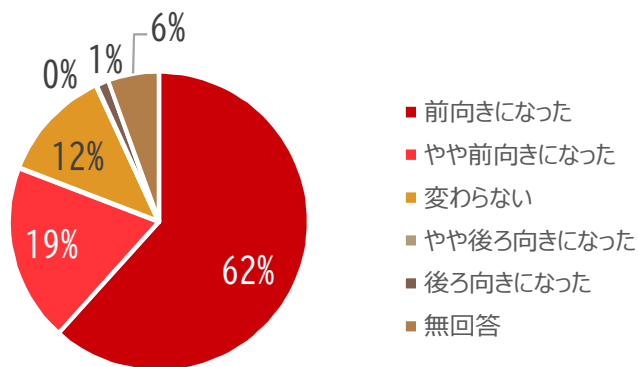
64% 15%

相談に来た目的としては、全体の64%の事業者が「販路拡大」や「売上アップ」といった内容でした。そのほか、事業全般に関する相談も、全体の15%を占めました。



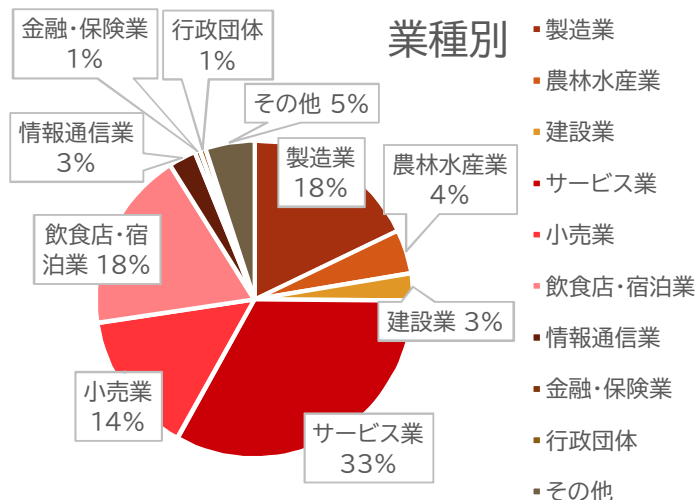
相談で事業に前向きになれたか

81%



業種別割合

相談に来た業種は、サービス業が33%で、飲食店・宿泊業(18%)、製造業(18%)と続きました。



創業支援



キャリアコンサルティング会社
Linpeace



テイクアウト専門店
cafe Two Go

2021年は新型コロナウイルスの影響はまだ残るものの、ゆざわ-Bizでの創業相談から、新規店舗や新会社が誕生しました。ゆざわ-Bizでは、創業の際の資金調達を含めた事業計画の策定や、創業時のコンセプトデザインなど、幅広い支援を行っています。



センター長(常勤) 藤田敬太

一橋大学経済学部卒業後、読売新聞東京本社で記者として約10年勤務。その後専門商社の役員や産業用カメラ技術商社の代表取締役として活動し、新規事業の創出から、財務管理や人事、取引先との交渉など多方面で会社の経営を行った。

2015年に地方ゼネコンのベトナムでの法人設立に携わり、現地法人長として、新規事業の開発を同国で行った。同国では、現地の金融機関であるVietnam Maritime Commercial Joint Stock Bankにも参画し、外国直接投資部の顧問として、外資企業や金融機関の誘致戦略を日本企業の視点からアドバイスを行った。

2019年10月1日 湯沢市ビジネス支援センター ゆざわ-Biz センター長就任。



ITアドバイザー(毎週水曜日) 飛塚嗣公

T-Solutions株式会社代表取締役

福島県出身、山形県在住。多店舗展開するスーパーの精肉部に勤務し、店舗マネージャーとしてマネジメント及び仕入れ、加工業務に従事。その後、IT関連企業にて営業兼エンジニアとしてサーバー、ネットワーク構築業務に従事したのち、大手SIerのシステムエンジニアとして主に鉄道、航空といった輸送系の社会インフラの構築を行う。

「新しい働き方と未来を創るしごと」をするために2015年8月に起業。T-Solutions株式会社を設立し、テレワークを推進するサービスの展開や、在宅ワーカーを活用した業務請負事業を行っているほか、キッズプログラミング教室事業も行っている。

2020年7月 湯沢市ビジネス支援センターゆざわ-Biz ITアドバイザー就任。

事務員1名

市産業振興部商工課担当職員

日々相談に訪れる事業者の相談案件の管理や、相談件数の管理や抽出などの事務作業といったバックオフィス業務は、事務員1名と市商工課の担当職員が行っています。

「ビズモデル」に基づく産業支援は、ゆざわ-Bizを含め、全国25の自治体で実施されています(2022年1月末現在)。

全国の事例を見ると、地域の商工団体等で作る協議会や、民間業者に運営を委託している自治体がほとんどですが、ゆざわ-Bizは湯沢市が直営していることが特徴です。

そのため、ゆざわ-Bizを通して、事業者が抱える課題や市内経済の動向を把握し、市が行う他の産業支援事業にも生かしています。



事務員・商工課職員

セミナー実施

2021年、ゆざわ-Bizでは講師を招き、市内の事業者を対象とした「無料セミナー」を計5回実施しました。前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響によりすべてオンラインでの開催となりましたが、参加者が30名を超えるセミナーもあるなど、好評でした。新商品開発から、ウェブマーケティング、動画作成講座など、事業者のニーズに合致した多岐にわたるテーマで開催しました。



新商品開発



ウェブマーケティング



動画作成



クラウド
ファンディング



実践型
インターンシップ

メディア掲載

相談を通じて完成した新サービスや商品などの情報を、相談事業者の希望に応じて、ゆざわ-Biz経由で報道各社にプレスリリースとして配信しています。2021年も前年に引き続き、ゆざわ-Bizの支援事例が多く新聞やテレビで取り上げられ、注目を浴びました。



2021年4月13日 読売新聞

講演活動

2021年は、藤田センター長が講師として招かれる機会が10回ありました。中学校や市民大学、事業者による協議会等、様々な場所で講演を行いました。そのテーマも、働く上で必要なスキルや、コロナ禍におけるビジネスのあり方など、多方面に及びました。



湯沢南中学校での講演の様子(2021年1月21日)

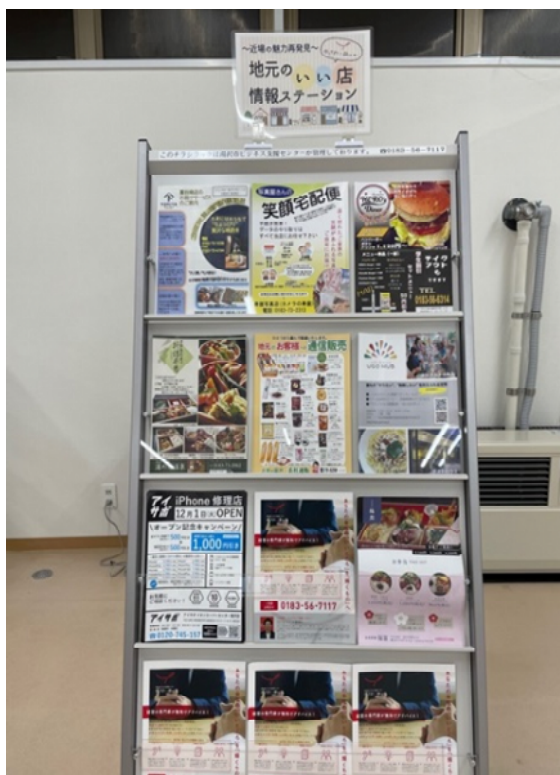
広報活動

市が毎月1日に発行する「広報ゆざわ connect」において、2021年5月号から隔月で、ゆざわ-Bizの相談事例を紹介するコーナーを掲載しています。また、2021年5月から、秋田テレビ「土曜LIVE! あきた」に藤田センター長がコメンテーターとして出演しています。県内のニュースに意見を述べながら、湯沢市やゆざわ-BizのPRを行っています。



「土曜LIVE! あきた」に出演中の様子(引用: 秋田テレビ(株))

情報発信サポート 通称「ビズラック」



ゆざわ-Bizでは、相談に来る事業者の情報発信の手段として、チラシの作成をサポートしています。しかし、事業者からは「チラシを作ってもどこに置けばいいのかわからない」という声も多いため、2020年12月から、市内の「人が集まる」事業所の協力を得て、パンフレットラックの設置を始めました。「～近場の魅力発見～ゆざわ-Biz発 地元の“いい店”情報ステーション」と名付けた「ビズラック」は、当初5か所に設置されていましたが、市内外の事業所の協力により、現在では9か所に増え、相談事業者の情報発信の場が拡大しています。

【設置箇所】

道の駅おがち「小町の郷」 秋田銀行湯沢支店
ビフレ湯沢店 北都銀行湯沢支店
ニュー千寿苑 湯沢郵便局
イオンスーパーセンター湯沢店
スーパーモールラッキー(横手市)
yado & kissa UGO HUB(羽後町)

他の機関や組織と連携した支援

2021年4月、「東北・北海道Bizネットワーク」が発足しました。ゆざわ-Bizを含む、東北地方及び北海道に展開する4つのBizが、今後も連携を強めていくこととなります。

2021年9月、湯沢市は株式会社 旅工房(東京都豊島区)と連携協定を締結しました。旅工房は、湯沢市への将来的な観光誘客のきっかけとするため、市内の物産を詰め合わせた「ゆざわBOX」を同社の会員向けに販売しています。ゆざわ-Bizは旅工房と連携し、「ゆざわBOX」のコンテンツのアイディア提供や、コンセプト設計などを行っています。

また、2021年、湯沢商工会議所が主体となり立ち上げた事業が、観光庁による「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」に採択されました。ゆざわ-Bizは、同商工会議所や地域の事業者と連携し、湯沢市の観光資源を磨き上げる取り組みを支援しています。

そのほか、湯沢商工会議所や北都銀行湯沢支店、日本政策金融公庫秋田支店(秋田市)、株式会社秋田銀行が設立した地域商社・詩の国秋田株式会社(秋田市)とは、事業者支援に関する連携を行っています。東北財務局秋田財務事務所(秋田市)や秋田県信用保証協会(秋田市)等とも定期的に情報を交換し、よりよい事業者支援のあり方を模索し続けています。



「東北・北海道Bizネットワーク」
発足時の共同記者会見の様子
(2021年4月19日)

新商品 新サービス 開発

2021年は、ゆざわ-Bizの相談から新たな商品やサービスが誕生しました。ゆざわ-Bizでは、事業者が持つ「強み」を磨き、消費トレンドに沿った新商品や新サービスをリリースすることをお手伝いしています。



ローカルでんき ふるさとエコ電気

秋田県の水力発電所から調達する「地域のエコな電気」を供給していることを広くPRするため、東京電力管内まで電気を供給し、顧客にふるさとと納税感覚で契約してもらう「ふるさとエコでんき」をサービス化。



Mare(KALULA) スタンドグラス仏龕(ぶつがん)

仏壇のない現代の家にもインテリアとしてなじむ、仏壇の代わりとなる仏具・スタンドグラス仏龕（ぶつがん）を商品化。



栗駒フーズ 温泉ヨーグルト

全国で唯一の地熱で低温殺菌した牛乳で、低温発酵させたヨーグルトを、「温泉ヨーグルト」とシンプルに名付け、より消費者に分かりやすく商品化。



阿部始漆器店 こけしのお箸

2020年に「こけしの帽子」や「こけしを飾る台」を商品化。2021年にも、新商品を投入。コロナ禍で、なおかつサステナブルがトレンドとなるなか「マイ箸」が注目されるようになったのに目をつけ、「こけしのお箸」を提案。全国から注文が。

事例(1)

世のトレンドをとらえた コラボ商品企画

事業者名: 中野木工、富谷商店

業 種: 木工会社、お茶の卸会社

相談内容

木材加工会社の中野木工さんは、子ども向けの「ちいさいないす」や天然木のボールペンなど、環境にやさしく、ぬくもりのある商品を作るのが特徴です。

ゆざわ-Bizには、「子供向けの椅子を顧客に送る際、必ず捨てられてしまう段ボールを梱包して商品を発送するのに疑問を感じている」と相談に訪れました。



提案内容

ゆざわ-Bizでは、段ボールにかわる梱包として、お茶の卸売りをしている富谷商店さんの蔵に眠る、廃棄予定の茶箱の再利用方法を提案しました。

茶箱は防湿効果が高く、頑丈であることから昔は重宝されていましたが、今は配送方法が変わり、ほとんど使われる機会がありません。茶箱は梱包する必要がなく、そのまま送り箱として使用できるため、子供用の椅子を発送する際はわざわざ段ボールで梱包する必要もありません。

そうした特徴に加え、中野木工さんが製作する子供用の椅子に対して、ちょうどテーブルがわりにもなるというメリットもありました。



結果

ゆざわ-Bizでは、早速中野木工さんと富谷商店さんをおつなぎし、商品化を行いました。

商品化後、中野木工さんでは、秋田市内の展示会に商品を出展したほか、こうした「ロス」を少なくする取り組みは、近年トレンドとなっている「SDGs」を体現する取り組みとして県内でも注目を浴びました。

事例(2)

売り先を変える

事業者名: フォラックス教育

業 種: 教育支援システム提供会社

相談内容

もともと別件のご相談でゆざわ-Bizに来られていたフォラックス教育さん。

藤田センター長が相談の中で同社のホームページを見ていたところ、同社が販売していた、小型収納アルミケースに入った農業従事者向けの「水質検査キット」が目にとまりました。



提案内容

ゆざわ-Bizでは、それまで農業従事者向けに販売していた水質検査キットを、小学生に向けた夏休みの自由研究課題キットとして販売することを提案しました。

子どもの夏休みの自由研究課題選びは、親にとって悩ましい問題です。「水質検査」というテーマは、子どもたちに環境問題について考えさせることができますし、特に近年は「サステナブル」や「SDGs」がキーワードとなっていることから、自由研究課題の材料としてぴったりでした。キットの中には、子どもにも分かりやすいよう、試薬の変化と水質の状態を説明した資料を入れ、パッケージも子ども向けに変えて、夏休み前に同社のネットショップで販売することにしました。



結果

夏休み前に商品を販売したところ、反響は絶大で、夏休み期間中に一度在庫切れにもなるほど人気商品となりました。

これまで何気なく販売してきたものも、少し目線を変えて考えてみると思いがけぬ売れ方をするケースもあります。

事例(3)

地域の事業者を巻き込んだ経営支援

事業者名: 秋田湯沢・雪中貯蔵協会

テーマ: 地域ブランディング

相談内容

2020-2021年シーズンの豪雪の際に、相談に来た事業者から、「今年の大雪で農作物に被害が出る可能性があるが、この雪を利用して何か事業ができないか」との相談がありました。



提案内容

ゆざわ-Bizでは、かねてから、①「地元では厄介者として扱われている雪を資源化する」②「地域の事業者が一体となったブランディングや商品作り」の二つを同時にできないかと考えていました。そこで、地元で昔から続く、野菜や果実などを冬期間雪の中で保存する風習に着目。この「雪中貯蔵」を使い、雪国でしか作れない商品を、市内の事業者が連携して商品化し、全国に向けてブランディングをする取り組みを提案しました。「雪国に住む人たちが普通に食べているものを、雪国ではない場所で付加価値をつけて売ろう」という試みに共感した市内の若手事業者が声を掛け合い、「秋田湯沢・雪中貯蔵協会」が誕生しました。

結果

果樹の枝折れやハウス倒壊などの被害を生むため、地元では負の資源とされていた「雪」を逆手に利用し、地域ブランディングの素材にしようという若手事業者の試みは、メディアからの反響も高く、様々な媒体で取り上げられました。1年目の商品は試験的で、少数だったものの、売り出し後は、即完売状態となる盛況ぶりでした。



事例(4)

新しいサービスを創出する

事業者名: アダージオ
業 種: 訪問美容

相談内容

アダージオさんは、高齢者や、身体に障がいがあり外出が困難な方の自宅を訪問し、髪のカットやシャンプーなどをする「訪問美容」を展開しています。「このサービスをもっと違うところに展開し、社会に役立つ形で提供できないか」と相談に訪れました。



2021年4月13日 読売新聞

提案内容

ゆざわ-Bizではまず、訪問美容のターゲットとなる「自宅からなかなか出られない人たち」の中には、身体的な理由ばかりでなく、心理的に外出できない人もいるという話をし、「いわゆる『ひきこもり』の方々にも需要があるのではないか」という結論に至りました。社会復帰をしようとしているひきこもりのの方々にとっては、身だしなみを整えようにも、外出して美容室へ行くのはなかなかハードルが高いのが現状です。これを訪問美容が実現できれば、社会復帰への課題を一つクリアできますし、「美容師との対話」は通常は背中越しのため、面と向かった対話が苦手な方にとっては、コミュニケーションの「準備運動」として非常にメリットが高い点の一つでした。

結果

こうして誕生した、美容を通したひきこもりの方向けの社会復帰支援サービス「かつそうろ」は、これまでになかったサービスとして、県内で注目を浴びました。

代表の佐藤さんは、新聞やメディアなどで積極的に取材に応じ、この新たなサービスの周知活動を精力的に行っています。





湯沢市ビジネス支援センター

ゆざわ - Biz

ゆざわ-Bizでは毎日情報発信中です！



Facebookにぜひ
「いいね！」を

ホームページ
サポートブログで
相談者情報を
発信中！



湯沢市ビジネス支援センター 2年目活動報告書 2022年2月

作成：

湯沢市ビジネス支援センター

〒012-0841 湯沢市大町2-1-60

TEL:0183-56-7117

E-mail:info@yuzawa-biz.jp

湯沢市産業振興部商工課商工労政班

〒012-8501 湯沢市佐竹町1-1

TEL:0183-55-8186

E-mail:shoko-rosei-gr@city.yuzawa.lg.jp